



東谷コミュニティ情報



編集 広報部会
東谷市民の身近な情報紙



第124号 令和5年9月20日

発行 東谷コミュニティ協議会

発行責任者 福田弘彦

携帯からも
アクセス可能

「東谷みみよりネット」

みんなの声、情報発信の基地
<http://higashitani.net/>

「ココスク」今後の活動方針

3年前、PTAの任意加入が突然周知され、会員数が激減！少しでもPTAを良くしようと思いついて来ましたが、そもそも古いPTAの体制では持続不可能になって来ました。

そこで、良いPTAの無くし方を考え、生まれたのが「ココスクール東谷小」です！

最も変わった事は「会員制度を無くし、会費を無くす事」です。

会員非会員はなく、全保護者に少しずつ活動を協力頂く形です。主な活動内容は、子ども達の安全を守る活動、学校を助けをする活動、学校・地域・保護者を結ぶ活動です。



また同時期に東谷中・牧の台小・北陵小もココスクールを発足しました。

4校で連携を取り、コミュニティと学校と保護者全体で子ども達を守っていきます！

近年、とにかく多忙な保護者が、地域や学校と協力して子ども達を守る為に何が出来るのか？持続可能な形は何か？そんな形作りを考えて、ココスクールは今後も柔軟に変化し、時代に則したやり方を模索して行きますので、ご協力をよろしくお願い致します。



7月31日(月)～8月4日(金)の5日間午前9時から、東谷小学校校舎3階の3つの教室を開放してココスクの活動として「夏休み宿題道場」が行われました。

この日(8月1日火)は各教室におよそ、17人、24人、27人の児童が集まり、持ち寄った教材で自習。

人数にバラツキがあるのは、それぞれが好きな教室を選べるようになってからのこと

一つの教室には保護者のボランティアが3～4人ずつ配置され、子どもたちが真剣に自習している姿を見守っていました。

夏休みの宿題を持ってきている子、読書をしている子と様々でした。保護者のボランティアや見守っている大人が児童に近づいて、一緒に考えている姿もみられました。

低・中・高学年の児童が一つの教室で自習しているので、集中して自習をしている子、友達とひそひそ話を始める子など様々な様子を見ることができました

1、2時間目の50分の自習の後10分の休憩時間が設けられていました。

3時間目は、皆が体育館に移動して紙飛行機の作り方を教わり、各自が作った紙飛行機を飛ばして遊びました。

夏休み
ココスク宿題道場！



「東谷地区の課題」

東谷コミュニティ協議会

会長 福田弘彦

日頃、コミュニティ活動に深いご理解と多大なるご協力を賜り、ありがとうございます！

今後も、住民の方々が楽しく、笑顔に溢れ、安心して毎日を過ごしていただくためにどうすべきかを考えながら、活動してまいります。

現在の東谷地区の課題として挙げられるのが：

- 東谷幼稚園のあり方
- 交通政策(コミュニティバス等)
- 山下駅前整備
- 自治会加入率の低下
- 自主防災の整備
- 市民病院跡地利用
- 多世代交流広場づくり
- 生活道路整備
- 公園緑地の整備

東谷幼稚園のあり方については、川西市としては、幼児数の減少と私立こども園の増設等の要因により、令和5年度の入園児が5人を下回る場合は廃園を検討する(現在入園児は3人)との方針を掲げています。コミュニティとしては、ただ単に廃園するのではなく、民営としてでも「こども園」等の保育機能を有した施設を、北消防署の跡地利用も含めた開発として提案しています。

市北部地域プロジェクトチームと協議する予定です。

自治会加入率の低下については、コミュニティとしても自治会を支援するため、今年度は自治会加入のメリットが大きい、防災避難訓練を共催することにより、自治会加入につなげていきます。

市民病院跡地利用については、福祉医療施設の充実と東谷地区には数少ない緑地公園設置の協議を進めております。

以上の課題解決に向け、『東谷まちづくり委員会』を設置し、協議検討して参ります。

参画ご希望の方をこのコミュニティ情報紙を通じて公募させていただきますのでよろしくお願いたします。



旧平安邸 休館のお知らせ

旧平安邸は10月3日(火)より約1年間耐震補強改修などの工事のため、ご見学ご利用ができません。

旧平賀邸、ミューゼレスポアールのご見学は土・日曜日、祝日のみ可能です(期間中無料)。団体見学や特別利用で平日をご希望の場合は希望日の14日前までにご相談ください。

※コミュニティ情報では「郷土館だより」を休館明けまでお休みとさせていただきます。



今年度の東谷市民体育祭に関して 体育部会

新型コロナウイルスの蔓延で開催を見送ってきた期間はありますが、伝統的に東谷市民体育祭を開催しております。

ただ、近年、東谷小学校区では、幼児・児童の数も減少し、大人も含めて体育祭に参加いただける方が少なくなっております。

引き続き、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



今年度で行ってきた競技も、年齢の枠を広げるなどしてできるだけ多くの方が参加できるように検討はしてきましたが、それでも参加人数の減少により、競技を行うことも難しくなっております。

今年度はこのような事情を鑑みて、従来の自治会別の得点種目のあり方をさらに見直すと共に、自由参加できる種目を増やしていく試みを行っております。

今まで伝統的に行ってきたいい面を残しながら、現在の事情のあった方法も模索してい

東谷市民体育祭
日時：2023年10月8日(日)
場所：東谷小学校運動場
※雨天の場合は10月9日(祝・月)に順延の可能性あり。

東谷市民秋まつり (収穫祭文化まつり)

11月11日(土)、12日(日)
※11日は公民館での展示のみ
場所：東谷小学校運動場・体育館・東谷公民館・東谷幼稚園
毎年皆様にご協力をいただいている検血車は、今回配車しません。

東谷小学校今年創立一五〇周年

東谷小学校は1873(明治6)年9月10日今の甘露寺に山下小学校として開校されました。



↑右奥は鳴尾川俱樂部

昭和29年には川西市立東谷小学校に改称されました。

昭和9年には鉄筋校舎が完成しました。当時鉄筋建築を見たいなら大阪へ出て阪急百貨店でも見なければならなかったのです。この鉄筋校舎は地元民にとっては脅威的でした。

建築費用の3分の1を東谷村500有余戸の村民に寄付を仰ぎ、当時としては目を見張るほどの大金であり壮大な建築計画でもありました。

昭和6年に着工し、約3年の工期をかけて昭和9年4月12日に竣工しました。

設置されたバリアフリー構造でした。

講堂には映写室やグラウンドピアノがあり、教室のほか理科実験室なども備えていました。また、地下にはボイラー室があり、教室にはスチーム暖房が完備されて児童たちはその上にお弁当を置いて温めたと聞かれています。校庭は広く、プールや雨天体操場、テニスコート、土俵が備えられて現在の私たちから見ても夢のような小学校であったことがわかります。

「ありがとう そうじ」

ちよつと聞きなれない言葉ですが、東谷小学校では今4・5・6年生全員が参加して、まちをきれいにする活動を行う計画を立てています。

これは、地域のまもり隊の方々が登下校時の見守りやお祭り、体育祭等の企画運営などで日頃お世話になっていることへの感謝の気持ちを伝えるための活動という事で、今後も様々な分野で住民の方々との協力関係を深めて



と小学校児童との距離を縮める活動を推進していくことでした。

令和 5 年度
東谷市民納涼祭
花火大会

7月29日(土) 東谷小学校の運動場で納涼祭花火大会を開催しました。

東谷幼稚園児による演技、川西北陵高校、川西緑台高校のダンスパフォーマンスなどを披露していただきました。花火は 800 発を打ち上げ、暑さに負けない来場者の歓声があがりました。

翌30日(日) は実行委員、東谷小児童、保護者の有志により片付けを行いました。

今後も楽しいイベントを地域住民の皆さんと一緒に創っていきます。



8月20日(日)、午前9時30分に小学校正門前に集合し、笹部駅近くの初谷川に参加者全員が徒歩で向かいました。

朝から気温が上がっていましたが、冷やりとした足元を流れる川の水は気持ちよくさわやかでした。

初谷川は水質も良く釜本邦博さん他3名の指導のもと、サワガニなど沢山の水の生きものを観察することができました。

地元の大切な川、そして子ども達の思い出の川として、初谷川をこれからも大切にしていだけたらと思います。



東谷歴史散歩 その⑥

『獅子山城下、山下町と下財屋敷の第2期繁栄』

「ひがしたに」の第 1 期繁栄時代は、塩川国満・長満父子による城下町整備が行われ、楽市楽座・多田銀銅山の経営によりもたらされました。

第2期繁栄時代は、本能寺の変(1582年)後、政権を手にした豊臣秀吉は、獅子山城を廃城とし直轄領とした事により始まります。

その家臣の館跡に多田銀銅山で採掘された銅の製錬所を設置しました。戦国時代末期、南蛮人より伝えられた新たな技法、「山下吹き」を全国でもいち早く取り入れ、黄銅鉱の製錬を可能にし量産する事により、山下町・下財屋敷も発展し繁栄を誇ります。

現在でも残る地名「下財町」は「宝物を掘る人・金堀師の総称」という意味で、

この頃から呼ばれました。

この多田銀銅山は古くから採掘され、資料では奈良時代に東大寺の大仏鑄造の銅を採掘したと伝えられています。この鉱山は江戸幕府も直轄領として統治することになります。多田銀銅山は、兵庫県では宝塚市、猪名川町、川西市、大阪府では能勢町、豊能町、箕面市までの、東西・南北とも 10 数Km に及ぶ広範囲の鉱山です。特に川西市の国崎・黒川の地区が中心部の広い地域を占めています。

この鉱山は、安土桃山時代から江戸時代初期にかけてが最盛期になり、以後は採掘量は減少していきますが、山下町、下財屋敷は職人や商売人を中心として財力を持ち、芝居や祭りなどを通じて「遊べる楽しい街」に発展して行きます。



その名残として山下町、下財地区にはそれぞれの地車(だんじり)の柱には彫刻が施され、見送り幕には赤地の羅紗に、源平『壇ノ浦の合戦』の刺繍が施された豪華なものが残っています。

その後も製錬所は操業を続け、平安家の平安製錬所(現在の川西郷土館)として昭和10年(1935年)頃まで継続されました。

＝製錬方法等の詳細は、川西郷土館で展示説明中＝



川西郷土館 製錬所跡

(参考文献 『高代寺日記』『多田銀銅山来歴申伝略記』『川西市史』)

(ご協力 川西郷土館館長 丸山浩志氏 藤巴力男氏)

A. S. H. F

令和5年6月19日(月) 鳴尾ゴルフ倶楽部で前期東谷市民ゴルフ大会を開催しました。

梅雨の真つただ中ではありましたが、この日は快晴に恵まれ、プレーヤーは存分に技量を発揮することができました。

87名(内女性8名)が参加。まるでボールに意志でもあるかのよう、プレーヤーの思いに沿った飛球、そうでない飛球ありで、一喜一憂の大いに盛り上がった1日でした。

コロナ禍でなかなか集まることができなかったゴルフ大会でしたが、19ホール目と言われる懇親会は、また別の楽しみがあり、再会を約束した今大会でもありました。



前期 東谷市民ゴルフ大会

優勝は少年野球のコーチをさ
れている梶合哲司さんでした。お
めでとございます。

黒川ダリヤ園 9月21日(木)オープン!



黒川ダリヤ園では今年約300品種900株のダリアが里山をにぎわしています。

毎年多くの方にお越しいただき、11月8日(水)まで開園しています。

花にはそれぞれクスツと笑うもの、なるほどと思わせるものなどユニークな名前がたくさん付けられています。これも楽しみの一つかもしれません。

10月が見頃です。是非ご家族お友達をお誘いの上ご来園ください。